



UNIFY **NXJ**

Release 10.0
新機能

このドキュメントでは、Unify NX^J Release 10.0 における新機能を紹介しています。

機能	機能概要
動的ドキュメント管理 (MS Office を含む)	<p>NX^J アプリケーションでは、MS ワード、エクセルおよび Adobe PDF のようなその他のタイプのドキュメントをアプリケーションサーバとの間で保存、取り出しができるようになりました。</p> <p>これによりエンドユーザは、Web アプリケーションの中でスプレッドシートのようなドキュメントを取り出し、更新、保存ができるようになりました。</p> <p>このドキュメントは、サーバ側に置かれ、ファイルシステム保存あるいはバイナリデータとしてデータベース保存のどちらでも可能です。</p>
動的イメージ管理	<p>NX^J アプリケーションでは、データベースにバイナリデータとして保存されているあらゆるタイプのイメージを自動的に、そして動的に扱うことができるようになりました。</p> <p>例えば、アプリケーションがデータベースに保存されている従業員の写真を扱えます。具体的には、NX^J 10.0 にて、単純にイメージオブジェクトをフォームに配置して、それをデータベースの従業員写真の項目に関連付けるだけでできます。</p> <p>イメージデータを動的に、追加・更新に関しても開発者は一切コーディングすることなく実現できます。</p>
自動ファイル転送	<p>NX^J アプリケーションでは、クライアントとサーバ間で双方向のファイル転送を行うことができるようになりました。</p>
アクティブ表示能力の拡張	<p>NX^J のアクティブ表示機能が 10.0 において、ビジュアルプロパティを含めて拡張されました。</p> <p>この拡張により、アプリケーション内のユーザインターフェイス・コントロールをアプリケーションの特定のイベント、データ例外等に対応して動的に変更することができるようになりました。例えば、フィールドの値が閾値より下なら赤字、同じなら緑文字、上なら青文字と言ったように含まれる値によって色だとかフォントを動的に変えることができます。</p>
カスタムデータソース	<p>NX^J 10.0 では、カスタムデータソースと呼ばれる新しい機能により、非リレーショナルなデータ、トランザクションを NX^J アプリケーションで自動的に扱えるようになりました。</p> <p>開発者は、カスタムデータソースを使って、すばやく簡単にカスタム Java クラス、Web サービスそして EJB さえもアプリケーションに統合でき、それらのデータソースからのデータ・トランザクションをアプリケーションのユーザインターフェイスに表示することができます。一旦データソースとして統合されれば、NX^J の強力なデータ操作（追加、更新、検索、データキャッシュ、ナビゲーション）とトランザクション管理が自動的に行えるようになります。</p> <p>カスタムデータソースの典型的な使い方としては、Amazon.com のようなサイトの Web サービスといった非リレーショナルなソースと統合、CICS/IMS といったレガシーとの統合、あるいは社内で開発されたカスタム EJB コンポーネントの統合などがあります。</p>



機能	機能概要
ストアードプロシージャとファンクションサポートの強化	<p>NX^d アプリケーションでは、標準の JDBC APIを使う手間のかかるコーディングはせずに、単純な標準 SQL 形式の構文を使ってストアードプロシージャ、ファンクション、パッケージを呼び出すことができるようになりました。</p> <p>これは、大量のビジネスロジックをストアードプロシージャ、ファンクション、パッケージの形でデータベースに持たせている Oracle PL/SQL 開発者にとっては大変重要な機能です。</p> <p>NX^d 10.0 では、これらのファンクション、ストアードプロシージャの呼び出し、結果のハンドリングが大変簡単に行えます。例えば、部門ごと平均給与を返すようなプロシージャの呼び出しを次のように行えます。</p> <pre>EXEC SQL CALL my_package.get_av_salary(department_name) RETURNING average_salary;</pre>
EJB ソース検査	<p>NX^d 10.0 では、デザインセンターに EJB ソース検査機能が含まれています。開発者は、ソース検査機能を使って NX^d フォームに対応して定義されたビジネスロジックから生成された EJB Java ソースを見ることができるようになりました。</p> <p>開発者が、EJB に変換されたすべてのビジネスロジックを見て確認できます。きれいに生成、編集された EJB ソースは、開発者が Java EJB の例として参照することもできます。</p>
カスタムユーザインターフェイスコントロール	<p>NX^d デザインセンターでは、フォームのレイアウト内に独自の UI コントロールを埋め込むことができるようになりました。NX^d カスタムコントロールは、JavaScript で書かれるもので、カレンダー、計算機、時計、色選択といったコントロールに使えます。</p>
動的リストボックスコントロール (List-of-value or LOV)	<p>NX^d 10.0 では、実行時にリストボックスコントロールを生成、再生成することができるようになりました。例えば、アプリケーションが「自動車メーカー」のリストボックスを表示し、HONDA が選ばれれば、「モデル」のリストボックスは HONDA に限定したモデルを表示するように生成することができます。</p>
ダブルクリックイベント	<p>NX^d 10.0 では、フィールドのような UI コントロールに対してダブルクリックイベントを追加できるようになりました。ダブルクリックイベントは、サーバーサイドのコマンドがクライアントサイドの JavaScript を呼び出せます。</p>
J2EE コンポーネント統合の強化	<p>NX^d デザインセンターでは、NX^d アプリケーションの配備パッケージ(.ear)にサーブレットおよび EJB をパッケージして配備できるようになりました。これにより NX^d アプリケーションの一部として含める必要のあるサーブレットあるいは EJB を開発または購入して、これらのコンポーネントを含めた形で NX^d アプリケーションをパッケージすることができます。</p>
JBoss アプリケーションサーバの組み込み	<p>NX^d は、JBoss アプリケーションサーバ (バージョン 3.2) を Unify eWave Engine に代わってデフォルトの組み込みサーバとしました。この J2EE 1.3 準拠のオープンソースサーバは、最近 12 ヶ月の間に劇的に利用者が拡大して、現在では世界中の多くのサイトで実際に利用されています。JBoss に関しては次のサイトを参照してください。</p> <p>http://sourceforge.net/projects/jboss http://www.jboss.org</p>



機能	機能概要
新規対応プラットフォーム	NX ^J では、新規に Oracle9iAS、WebLogic 7 アプリケーションサーバとMySQL データベースに対応するようになりました。
チーム開発の強化	NX ^J 10.0 Enterprise Edition では、CVS バージョン管理を使ってチーム開発のための統合サポートを行うようになりました。これには、チェックイン、チェックアウト、マージ、diff 等が含まれます。この統合は、CVS ファイルシステムとCVS PServer を使っています。
マスタープロジェクト共有による再利用の強化	NX ^J 10.0 では、プロジェクト間でオブジェクトを共有することができるようになりました。これにより、共通のオブジェクト、コンポーネントを含むベースプロジェクトを持つことで、それを他のプロジェクトで共有します。再利用できるオブジェクトとしては、ズームフォーム、次フォーム、接続、フッター、ヘッダー、ツールバーといったようなものがあります。

